

海外事情

Overseas Language and Culture Course

CHINA

本学の科目「海外事情」は夏期短期海外留学であり、大学公認の単位付き海外語学研修です。

実際に海外へ赴き、本学と国際交流協定を結んでいる海外の大学において語学研修を行うとともにその国の文化や歴史などを体験することによってグローバルに活躍する人材を育成します。

● 中国「南京大学」への留学

世界一話される言語、中国語を学ぶ。

参加学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、その後の中国各地への研修旅行を通して、実践的な語学力を体得し、かつ現在の中国事情と中国文化に対する理解を一層深めることを目的としています。本学と国際交流協定を結んでいる南京大学で、夏期休暇期間に3週間程度の中国語研修を実施し、その前後5日間程度の研修旅行を行います。切り絵や水墨画などの中国文化体験や太極拳等がカリキュラムに組み込まれている日もあり、1日を通して充実したプログラムが魅力です。また、本留学には、学生各自が異文化理解の能力を向上させると同時に、国際的視野や見識も養成させるねらいがあります。

TOPIC

アジアの時代に生き抜く力を！

現在、中国語は世界で最も多く話されている言語です。中国市場は勢いよく広がりつつあり、中国を知ること学ぶことは、これからの時代を生き抜く中で非常に重要な戦力となります。

開講学部：経営情報学部／情報メディア学部／医療情報学部

種別：選択

配当年次：1・2・3・4年

単位数：2単位

開催時期：夏期集中

評価：研修（「海外事情（中国編）」・2単位）の評価は、研修先での成績と、受講生が本学担当教員に提出するレポートにより総合的に判断する。

海外事情

留学先	南京大学 海外教育学院 中国江蘇省南京市漢口路22号
電話	0086-25-83593587
FAX	0086-25-83316747
日程	8月上旬～9月上旬（約4週を予定）
申込期間	4月下旬より開始
参加人数	20名
参加資格	本学で中国語を履修している全学生および通信教育部の正科生B
参加費用	約230,000円* （入学申請費＋授業料学費は北海道情報大学が補助）

*宿泊費、上海、蘇州観光費、研修旅行費、海外旅行傷害保険料などを含む概算金額です。そのほか、日本国内の交通費および自分の小遣いなどが必要です。
※上記はすべて平成24年度の内容となっています。何卒ご了承ください。

MONGOLIA
モンゴル

NORTH KOREA
朝鮮民主主義人民共和国

SOUTH KOREA
大韓民国

JAPAN
日本

TAIWAN
台湾

人口1,100万人を超える
中国の政治と文化の中心
北京 BEIJING
天安門広場 北京の中心部にある
皇城の正門で、中華人民共和国のシンボル。正面から見ると、その存在感に圧倒される。

東洋のベニスと称される水の都
蘇州 SUZHOU
拙政園 明代の16世紀初頭に造られた「蘇州四大庭園」のうち最大の庭園。水をテーマとし、池や堀が約7割を占める。

情報と文化の中心
南京 NANJING
南京大学 中国を代表する大学。中国で最初に外国人留学生を受け入れた大学のひとつで、国際交流にも積極的に取り組んでいる。

中国最大の国際都市
上海 SHANGHAI
外灘 20世紀初頭前後の租界時代に、イギリスをはじめ各国の銀行や商社により建てられたノスタルジックなビルが並ぶエリア。

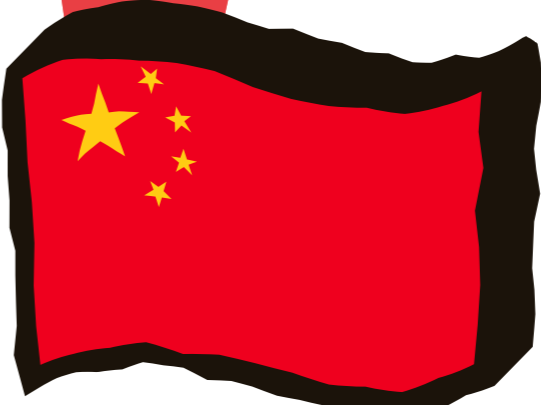
広い国土に世界一の人口を抱える大国。

13億を超える世界最大の人口を擁し、国土もロシアとカナダに次ぐ世界第3位の面積を誇る中国。人口の94%を占める漢族のほか、チワン族、ウイグル族、モンゴル族など55の少数民族からなる多民族国家である。また、朝鮮民主主義人民共和国、ロシア、モンゴル、カザフスタン、インド、ネパール、ベトナムなど、もっとも多くの国と国境が隣接している国でもある。

中国共産党による一党独裁の政治体制。

近代になって、市場経済導入などの経済開放政策を実施。その結果、経済は急成長したが、それとともに貧富差の拡大や環境破壊が問題となっている。とくに全国民の0.4%の富裕層が国民所得の70%を占有するほどまでに年々格差が拡大し続けている。

CHINA





南京大学の特長

南京大学との交流の歩み

本学における南京大学との交流は、現在に至るまでの関係者の皆さんによる多くの努力と、信頼の積み重ねが、あつて発展してきました。最初になつたのは、故松尾三郎前理事長と中国電子機械工業部計算機局長であった郭平欣先生との、国を越えての友情と厚い信頼によるものです。かねてから故松尾三郎前理事長は「情報化が進めば、世界との距離が格段に近くなる」という考えを持ち、情報のグローバル化に備えて、少しでも早く次世代を担う若者たちに必要なフィールドを整えたいという想いもあったことから、南京大学との交流には積極的で、1983年には留学生を招聘し、2年間に渡る情報技術研修を実施。これを機に南京大学との交流がさらに深まり、1994年には松尾三郎前理事長が南京大学顧問教授の称号と、同大学での研究室をいただきまし。残念なことに、松尾三郎前理事長は1998年に永眠されましたが、その遺志を引き継ぎ、翌1999年5月25日には、電子開発学園松尾泰理事長と陳駿南京大学副学長(当時)によって、「日本国電子開発学園と中華人民共和国南京大学との国際交流協定書」を締結。同時に同協定の「実施に関する細則」が本学大野公男学長と陳駿副学長の署名により調印され、これに基づき「中国語研修」の実施計画が立てられました。同年8月、記念すべき第1回中国短期留学が実現。これまでに12回実施されており、第4回目以降は「海外事情(中国編)」という科目に認定。さらにこの間には南京大学への長期留学生も出ています。学生のみならず、異文化に触れて新たな可能性を伸ばして欲しいという願いのもと、中国短期留学はさらなる充実を進み続けていきます。

南京大学ってどんな大学?

南京大学の創立は1902年。中国でもっとも歴史ある大学のひとつとして知られる、中国国家教育委員会直属の重点総合大学に指定されています。近年においては北京にある精華大、北京大と並ぶ全国上位の大学として認められ、さらなる大学設備の充実や教育機関としての向上を図っています。長江下流の街、中国四大古都の一つ南京に位置し、中国で最初に外国人留学生を受け入れた大学の一つでもあり、今までには世界70以上の国や地域からの留学生が南京大学で学んでいます。その総数は1万人以上に及び、特に韓国・日本・ドイツからの留学生が多くを占めています。留学生の受け入れ体制が整っており、中国語初心者には経験豊富な教師が語学教育にあたるなど、留学生に対する体制はますます充実しています。学習環境も良好で、風光明媚、気候が穏やかで過ごしやすく、環境が整い交通も便利です。設立されて以来、広く国際交流を行っており、世界中の多くの一流大学や研究機関との間に協力を築いています。

南京市ってどんな街ですか?

南京市は、中華人民共和国の副省級市で、古くから長江流域・華南の中心地として10の王朝が都を置いてきた歴史ある都市です。北京、西安、洛陽に並ぶ中国四大古都に数えられています。また2500年の歴史を誇る南京市は古代から現代までの様々な歴史遺産があり、中国国内でも観光地としても有名で、全国優秀観光都市に選ばれています。歴史遺産だけでなく「緑の都」としても知られており、緑化率は街全体の40%以上を占め、国内の都市の中でトップに立っています。旧市街を取り囲んだ南京城壁は高さ13~25m、周り34kmに達して世界最大として知られており、山、水、城、森が一体化した景観が美しい都市です。夏はとて暑く、重慶、武漢と並ぶ中国三大ボイラー(三大火炉)の一つとも言われています。教育の面でも優れた都市で、1907年創立の南京図書館や、全国第2位の収蔵を誇る南京博物院など文化事業も充実した街であり、生活環境が良好です。

南京大学担当者からのメッセージ



汪平先生
南京大学 外国語学院 副院長

日本には遠い親戚より近くの他人という諺があります。中国と日本はただの近くの他人だけではなくて、近くの他人よりもっといい隣国だと思います。どんなことがあっても、中国と日本は、良い隣国にならないといけないのです。相互理解は良い隣国になる道への唯一の方法でしかありません。交流はまた理解への道です。また、言葉の勉強は交流の始まりです。言葉の勉強によって我々の人生を豊かにしましょう。

南京大学担当者からのメッセージ



陈华先生
南京大学 外国語学院 弁公室主任

中国には「民以食为天」という諺がある。いわゆる「民は食を以て天と為す」という意味である。この諺から中国人には食事がどれだけ大切なことかを垣間見ることができるだろう。ことばを覚えるにはその国の文化を体験するのが一番である。なので中国語の勉強も本場の中華料理のツアーからスタートしましょう。

短期留学 中国編 スケジュール

つぎに

パスポートを申請し、取得します!

まずは以下のものを用意してください。

- ①一般旅券発給申請書(パスポート申請窓口にて入手できます)
 - ②戸籍謄本または戸籍抄本…1通
 - ③写真(縦 45mm×横 35mm)…1葉
※緑なし無背景で、申請日前6か月以内に撮影されたもの
 - ④本人確認書類 ※原本のみ、コピー不可
1点提示すればよいもの
○運転免許証 ○写真付きの住民基本台帳カードなど
以上に当てはまる書類がない場合は次から2点提示(提出)ただし、④+⑤、または④+⑥の組み合わせで2点必要
 - ⑤健康保険証、国民健康保険証、共済組合証、船員保険証、後期高齢者医療被保険者証、国民年金証書(手帳)、厚生年金証書、船員保険年金証書、恩給証書、印鑑登録証明書(印鑑も持参)など
 - ⑥在学証明書、写真付きの身分証明書(学生証/社員証など)失効旅券(失効後6か月以上経過したもの)
 - ⑦印鑑(スタンプ式ゴム印は不可)
※訂正箇所があった場合に必要となります。
- 以上のものを用意して、申請窓口で申し込みをしてください。また、受領時に収入印紙にて下記の手数料が必要となります。
- 10年間有効なパスポート
…収入印紙14,000円+都道府県収入証紙2,000円
 - 5年間有効なパスポート
…収入印紙9,000円+都道府県収入証紙2,000円

【先輩からの知っ得情報】

- 奨学金制度もあります!
貸与限度額150,000円(無利息)の奨学金があります。学生サポートセンター事務室で手続きできますよ。
- 航空券は自分で買わなくてOK!
国内便も国際便も大学側が手配してくれます。他の経費と一緒に請求されるので、安心です。
- 海外傷害保険も加入してくれます!
大学で海外傷害保険に加入してくれます。ただ、自分でも重ねて加入しておくとうり安心かも。

初めてのパスポート、早めに申請しましょう!

私は一旦費用を両親にお願ひして、帰国後こつこつと返済しました

まずは

実施計画案またはポスターをチェック!

- 情報大学在学学生は…4月下旬より貼り出される実施計画案を見て、申込先をチェックしてください。また説明会も開催されます。
- 通信教育部の学生は…各教育センターに掲示されるポスターにある問い合わせ先に連絡をすると、詳しい資料がもらえます。

申し込み開始は4月下旬を予定しています。参加費用の他、その他国内交通費や自分のお小遣いなどが必要です。

先生と相談して参加しようと思いました!

参加が決まればあとは準備を念入りに!中国語の勉強もお忘れなく。

経営情報学部 システム情報学科 張端 さん

経営情報学部 システム情報学科 川原 さん

続いて

荷物を準備しましょう!

- 機内持ち込み手荷物
○パスポート○写真(予備)○現地通貨(現地到着後も換金はできません)○航空券○クレジットカード(必要に応じて)○ノートパソコン○筆記用具○ポケットティッシュを多めに
- 受託手荷物(スーツケース)
○衣類、下着○目覚まし時計○着着(南京大学のプールが使えます)○辞書○ガイドブック○常備薬、コンタクトレンズケア用品○変圧器(必要に応じて)
その他、みなさんの日常で不可欠なものをお忘れなく!

【先輩からの知っ得情報】

- ◇日差しが強い日も多いので帽子を持って行ってね。
- ◇寮には洗濯してくれる係の方がいます。洗剤を持っていくと洗ってくれるよ!
- ◇必要最低限の薬は引率の先生が持って行ってくれるよ。
- ◇中国のトイレはティッシュがないから気をつけてね。
- ◇寮の周りにはスーパーやコンビニがあるから洗面道具などは現地調達でもいいかも。

情報メディア学部 池田美紗希さん

経営情報学部 システム情報学科 川原 さん

8/9 ○ 8/11 悠久の歴史に触れる! 研修旅行

近代化の進む上海と、歴史的建造物と近代的なビルが溶け合う蘇州を見学。



8/9 1日目
上海浦東国際空港到着!
名古屋中部国際空港を経由してよいよ上海!

8/10 2日目
上海観光
中国の商業・金融・工業・交通の中心の一つである大都市を見学します!

豫園
中国庭園文化の粋を集めた上海きっての名園。

外滩
上海の中心であり、官庁や銀行が多くおしゃれな街並み。夜景がきれい!

上海博物館
約4万平方メートルの床面積を誇る巨大博物館。

8/11 3日目
蘇州観光
「東洋のベニス」と呼ばれる蘇州。街中を通る運河が印象的なロマンティックな街並みです。

寒山寺
黄色の鮮やかな土塀が印象的な仏教寺院。

虎丘
標高30メートルあまりの小高い丘に、雲岩寺塔や剣池などの歴史旧跡があり見所が多い。

拙政園
中国四大庭園の一つ。水を主題とした素朴な美しさが特徴。

8/12▷8/31 いよいよ研修本番! 中国語研修

南京大学で中国語を学びながら、
買い物や食事を通して
中国の人たちとコミュニケーションを実践。



8/12 中国語研修開学式



これからしばらくお願いします!

南京大学
到着!



●授業は2人の中国人教師によって行われます。実践的な中国語会話を中心に教えてくれます。

8/13~8/31 中国語研修

語学・総合授業



少人数制なので
しっかり勉強できます!

自由時間



放課後はみんなで南京市内へ!ショッピングや食事なども楽しんで♪

8:00	12:00	14:00	17:00
起床・朝食	語学または総合授業	昼食・昼休み	自由時間または中国文化体験
1日のスケジュール	語学または総合授業	自由時間または中国文化体験	夕食・就寝



●先生と一緒に観光することもあります。

中国文化体験



放課後には中国の文化を体験できます。ぜひチャレンジしてください!

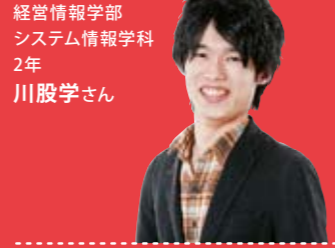


8/31 研修修了式&送別会



お世話になりました!

STUDENTS' VOICE



経営情報学部
システム情報学科
2年
川股学さん

二度目の留学だったので、去年より多くのことに挑戦でき、さらに多くの人と知り合えて、中国がもっと好きになりました。



経営情報学部
システム情報学科
2年
張端一さん

最初はよくわからない中国語。でも少しずつわかるようになり最後の方では店で値切りもできるようになった!

9/1▷9/4 歴史に想いを馳せる! 研修旅行

歴史的な遺産や建築物がひしめく、
中国の首都をじっくり見学。



9/1 移動日

南京から北京へ
列車で移動
すごい熱気と外国語のアナウンスに圧倒されました!



9/2 1日目

北京観光
首都北京で、南京で習った中国語研修を活かそう!



八達嶺

世界遺産「万里の長城」の一部で観光可能な一般公開されている場所。

明の十三陵



雍和宮



9/3 2日目

天安門広場

中国のシンボリックな存在。50万人を収容できる。

孔子廟



景山公園



天壇公園



故宮

中国最後の皇帝の居城・紫禁城がそのまま博物館として公開されている。



北京動物園

中国でも最大規模を誇る動物園。



9/4 3日目

頤和園



王府井や胡同散策



9/5 帰国日

帰国後、レポートを提出して修了



山本 夏美さん

大好きな中華料理を本場で食べてみたい!

「異文化交流会」というサークルの会長さんから留学を勧められたのが参加のきっかけです。私はもともと中華料理が大好きだったので、本場の中華料理を食べてみたいと思い参加しました。

何より印象的だったのは小籠包のおいしさ

中国語の発音は微妙なので、授業では発音練習をたくさん行った印象があります。実践的な授業だったので、学んでからすぐに使うことができ、とても楽しかったです。でも、何より心に残ったのは、やはり中華料理!特に小籠包がおいしくて何度も食べました。観光で訪れた万里の長城も良かったです。

新鮮なことでいっぱいだった中国での日々

最初は見知らぬ土地に行くという不安がありました。実際に行ってみると楽しく過ごせてしまうものです。不慣れた土地で言葉が通じないこともあったため、日本との違いを感じて不便に思ったこともありましたが、でも、毎日過ごしているうちに、まったく気にならなくなりました。いろいろな場所に遊びに行きましたし、忍耐力と行動力を身につけたように思います。中国での日々は毎日新鮮なことであふれ、楽しい毎日でした。



細木 宏祥さん

アルバイトをして費用を捻出

大学で「海外事情」の話聞き、子どもの頃から興味を持っていた中国で異文化交流をしてみたいと思ったのが参加のきっかけです。入学当初から計画的にアルバイトをして留学費用を貯めました。

中国の生きた言葉を習得できた

授業で中国の先生が使う言葉がほとんど理解できず苦労しました。それでも、日が経つにつれて少しずつわかるようになり、授業も楽しくなりました。中国で暮らす人たちの生きた言葉を聴き、本場の中国語を学ぶことができたことが大きな収穫です。簡単な中国語の会話もできるようになりました。

日本には得られない貴重な経験

中国で驚いたのは、なんといっても人の多さとスクーターの量です。観光地はどこもテレビや本などで見るよりずっと美しく、感動しました。食事は本場ならではのおいしさがありました。有名な北京ダックを食べることができたこともいい経験です。中国では、日本には学べないさまざまな体験をすることができました。行く前には少し怖いイメージがありましたが、中国の人々も日本人と変わらず、とてもやさしい人たちでした。中国の文化や生活は、すべてが新鮮!この経験をもとに、また個人的に訪ねてみたいと思っています。



STUDENTS' VOICE



中国で国際交流。

語学を実践し、異文化体験。グローバルな視点を身につけます。

池田 美紗希さん

いま経験することが自分の力になるかも?

留学をするきっかけは、授業後に玉置先生から誘っていただいたことでした。親も留学には前向きで、私自身「いま国際交流を経験すれば自分にプラスになるかもしれない」と思い、参加を決めました。

親身な指導と実践的な会話が役立った

授業では、基礎となる発音・単語を対話を交えて学んだり、日常会話を実践的に学んだりしました。先生はわからないところを親身になって指導してくださったし、買物の時に覚えておきたい会話文などを教えてくれました。学生同士仲が良かったので、毎日とても楽しく過ごすことができました。

留学経験は、言葉にならないほど大きな収穫

中国では毎日が発見で、異文化を身をもって体験する日々でした。チャレンジ精神が鍛えられたと思います。印象に残っているのは、観光地でたまたま発見した、上半身裸でローラースケートに乗り歌っていたおじさんです。歩道の真ん中で首を締めながらケンカをしているカップルとか、毎日が中国の現代文化にふれている感じでした。一日一日が新たな発見に満ちていたので、留学の日々で得た経験は大きすぎて言葉にできません。



嶋田 崇志さん

隣の国に住む人たちを知りたくて

中国は日本に近く、私たちと同じ漢字を使う民族ですが、本やニュースでしか知りません。現地の人たちはどんな人たちなのか、実際に中国に行って詳しく知りたいという気持ちから、短期留学を決めました。

人々のやさしさが自分の考えを変えてくれた

いちばん印象に残っているのは、中国の人たちのやさしさです。日中関係のニュースは悪いことばかりが多いですが、一般の人たちは聞き取れなかった単語をゆっくり言ってくれたり、英語に変換してくれたり、なんとかしてコミュニケーションを図ろうとしてくれました。そういう姿を見て私も、日本にいた時のような一方的な考えは捨てよう決めました。

もっともっと、いろんな世界を見てみたい

留学したことで、自分の考えや物事のとらえ方など、さまざまなことが変わりました。言葉がわからなくても、身振りや手ぶり、単語だけでも生活できると考えたことも大きな変化です。もっといろんな国に行ってみたく思うようになりました。留学に興味があっても、ちゃんとやっていけるか、危険はないかと躊躇する人も多いと思いますが、まずは行ってみてください。悩んだ時は引率の先生や友達に相談していっしょに解決していけば大丈夫。海外に行ったということが何よりの経験になります。



一緒に中国へ行こう！
TEACHERS' MESSAGE
中国引率教員のメッセージ

本場の中国語を聴いて話す。
その実践的なトレーニングで
中国語の実力を着実に伸ばす。

着実に語学力を伸ばし
充実感と達成感を得た学生たち。

南京大学で9名が受ける授業は初級中国語のクラスですが、昨年も参加した1名は中級中国語のクラスで指導されていました。講師は2名で、一人の若い男性は発音と会話を中心として教授し、もう一人の女性は日本語も話せるので、読解と作文を中心に教授していました。中国語の授業は聴いて話すという実践的なトレーニングが大半を占めるので、中国語の基礎学力しか持っていない学生たちにはなかなか大変なレベルでしたが、学生たちはまじめに努力して受講したので、着実に中国語の実力を伸ばしていたようです。

語学研修も文化交流も、
全員が大満足の結果に。

今年は参加学生が総勢で9名で、中国語の勉強や太極拳の習得などでも積極的によく頑張っていたのが印象に残りました。北京への研修旅行では、滞在したホテルも豪華で素晴らしく、多くの名所旧跡も順調にかつ計画通り見学できて、全員が大満足のようでした。また、北京では反日運動もまったく起きていなかったため、我々のグループも不愉快な思いをせずに研修旅行を完遂できて、本当に幸運でした。

百聞は一見に如かず。
なんでも自分の目で見てみよう。

留学に関しては、学生の強い意志と意欲、あるいは「何でも自分の目で見てみよう」という好奇心が必要不可欠な要素。したがって、どうしても学生諸君の燃える情熱と大きな勇気に期待するしかありません。ただ、「百聞は一見に如かず」という格言は、絶対に永遠の真理です。学生たちにはぜひチャレンジしてほしいと思っています。



経営情報学部 システム情報学科
教授 玉置 重俊



情報メディア学部 情報メディア学科
教授 田中 英夫

同じ漢字を使う隣国・中国で
日中の大学生同士が語り合う。
生きた言語を学び、文化にふれる。

太極拳や切り絵など、異文化体験に喜びの声が。

留学先では、午前中は中国語の授業、午後は太極拳、中国文化（水墨画・切り絵）、学外見学（南京市にある世界文化遺産など）という内容で、語学を学ぶだけでなく、さまざまな中国文化にふれることもできて良かったと思います。学生からは「南京大学での中国語の授業は非常に楽しく、勉強になることばかり」「切り絵をやってみると結構楽しかった」「太極拳の先生にうまいと言われ、うれしかった。久しぶりに体を動かしたので気持ち良かった」「世界文化遺産である中山陵の頂上で見た景色は大変素晴らしく、綺麗でした。孫文の像は歴史を感じさせ、感慨深いものでした」などと喜びの感想が寄せられています。

今まで以上に現地の大学生との親睦を深める。

今年の「海外事情（中国編）」では、これまで以上に現地での交流が盛んでした。研修先である南京大学海外教育学院に到着した後、かつて本学に留学していた中国人学生たちとのうれしい再会や交流があっただけでなく、南京大学金陵学院日本語科在籍の中国人大学生との交流も週に1回開催されたから、本学の学生が多くの中国人大学生と親睦を深めていたのが印象的でした。

いっしょに行こう！
あなたのユメ実現を私がサポート。

留学に興味があるなら、いささかも躊躇なく現地に行こう！異文化を体験したいなら、まずは同じく漢字を使う一衣帯水の隣国である中国へ！あなたのユメ実現をサポートするのは私です。

※一衣帯水（いちいたいすい）とは、一筋の帯のような狭い川・海。その狭い川や海峡を隔てて近接していることをいう。（広辞苑より）

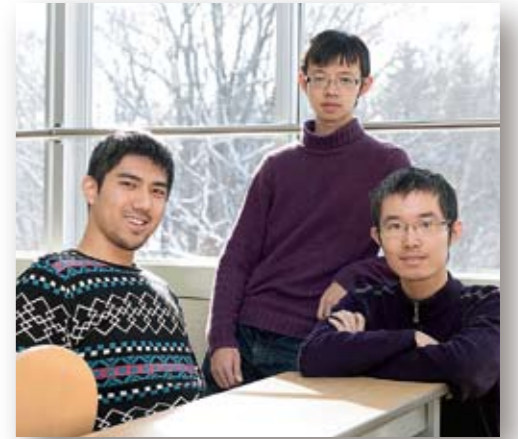
TO STUDENTS

南京大学との国際交流。

🇯🇵 × 🇨🇳 留学共同プロジェクト

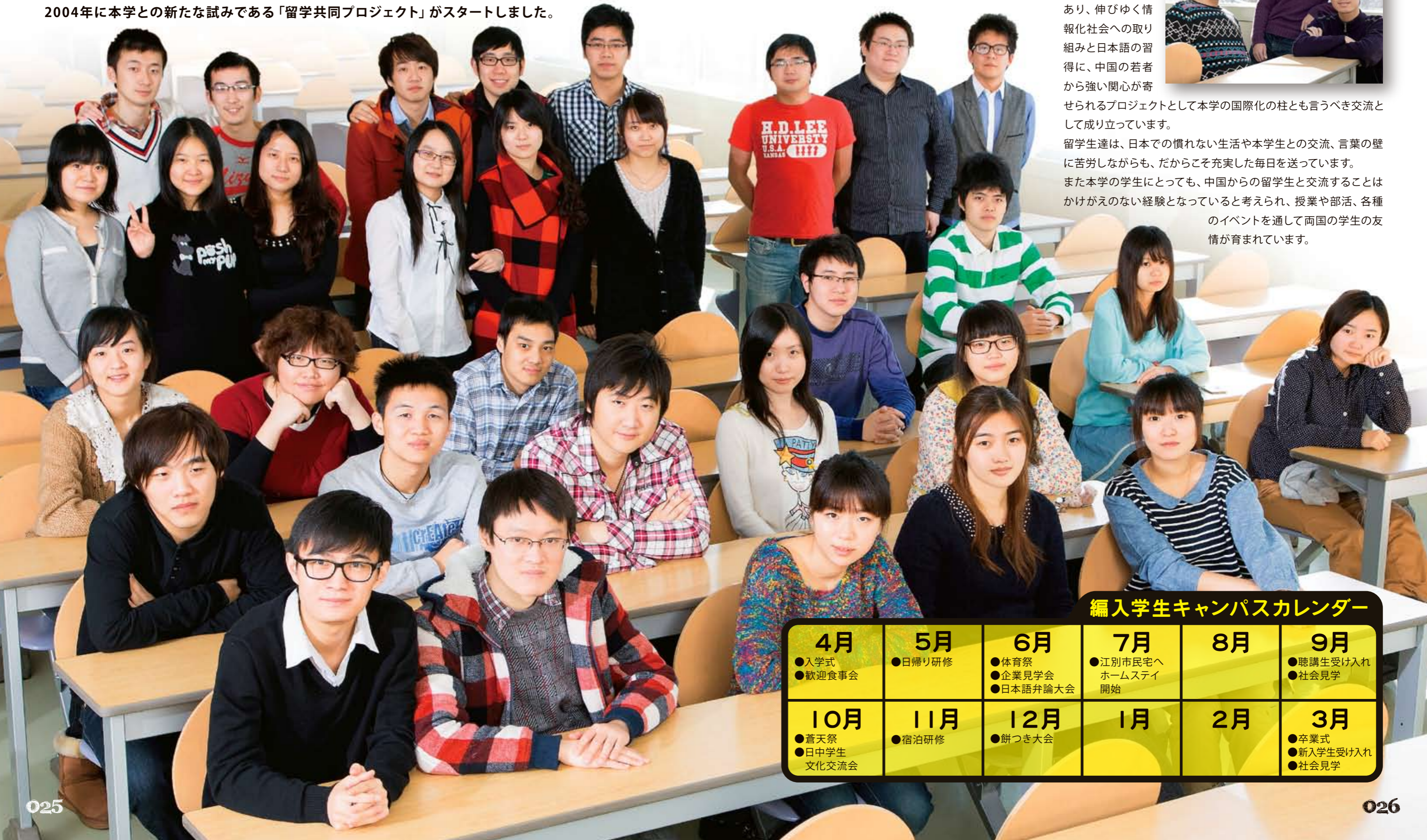
1999年に本学と国際交流協定が結ばれた南京大学では、
2004年に本学との新たな試みである「留学共同プロジェクト」がスタートしました。

南京大学外国語学院日本語学部での2年間の課程を終えた学生が本学へ編入できるこのプログラムは、双方の大学で勉強ができるという大きな魅力があり、2006年に1期生を迎えてから毎年多くの編入生が本学に入学し、2013年には7期生を迎える予定です。加えて南京大学からは聴講生なども留学しており、現在では70人を超える在学生在が本学での勉学に励んでいます。南京大学から本学への留学課程の中心には「ITと日本語」という二大要素が



あり、伸びゆく情報化社会への取り組みと日本語の習得に、中国の若者から強い関心が寄せられるプロジェクトとして本学の国際化の柱とも言うべき交流として成り立っています。

留学生達は、日本での慣れない生活や本学生との交流、言葉の壁に苦労しながらも、だからこそ充実した毎日を送っています。また本学の学生にとっても、中国からの留学生と交流することはかけがえのない経験となっていると考えられ、授業や部活、各種のイベントを通して両国の学生の友情が育まれています。



編入学生キャンパスカレンダー

4月 ●入学式 ●歓迎食事会	5月 ●日帰り研修	6月 ●体育祭 ●企業見学会 ●日本語弁論大会	7月 ●江別市民宅へホームステイ開始	8月	9月 ●聴講生受け入れ ●社会見学
10月 ●蒼天祭 ●日中学生文化交流会	11月 ●宿泊研修	12月 ●餅つき大会	1月	2月	3月 ●卒業式 ●新入学生受け入れ ●社会見学